

おいしい 野菜
がばい食育 はじむッバイ！



が ば い よ か 武 雄 の 食 育 推 進 計 画

武 雄 市
平成 20 年 3 月

目 次

武雄市食育推進計画の策定にあたって（序章）	… 1
第 1 章 食育推進の目標	… 3
1. 計画の目標	
2. 基本方針	
第 2 章 食育推進の施策展開	… 5
1. 五感を使った食育体験プログラム	
2. ライフステージにおける食育の推進	
第 3 章 計画の着実な推進に向けて	… 12
1. 計画の推進体制	
2. 家庭、地域及び行政の役割	
3. 計画の評価と見直し	

参考資料 武雄市の食を取り巻く現状

「食育」とは？

- 生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの
- 様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること

武雄市食育推進計画の策定にあたって（序章）

【計画策定の趣旨】

武雄市には、地球のアンテナのようにそびえ立つ樹齢三千年の楠の巨木があります。三千年前の縄文時代の人々は、川で釣った魚と、近くの山で拾ったどんぐりを粉にした団子、山菜と一緒に土器に入れて煮るだご汁（だんご汁）を主食として自然と共存した食生活を送っていました。私たちが生きていくためには、「食」は欠かせないものです。また、「食」は健全な心身を養い、豊かな人間性を育む基礎となるものでもあります。

今日の食をめぐる情勢は、食べ物があふれ、食に関する情報も氾濫しています。その一方で、偏った食事をする、食事を取らないといった問題も発生しており、栄養バランスの崩れなどから、大人から子どもまで生活習慣病の予防が課題になっています。また、食料の海外依存の高さや、大量に廃棄される食べ残し、伝統的な食文化や米食を中心とした和食文化の衰退など、私たちの食生活はたくさんの問題を抱えています。

今こそ、私たちは、自らに最も適した食について知識と経験を豊かにし、伝統的な食文化を継承しつつ、心身の健康の増進のため健全な食生活を実践していくことが必要です。

特に、これからの時代を担う子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけるためには、福祉・教育関係者、保健医療関係者、農業関係者、旅館、飲食店、食に関わる各種団体などが緩やかに連携・協働し、子どもや保護者に適切な働きかけや支援を行うなど食育を推進する仕組みづくりが求められています。

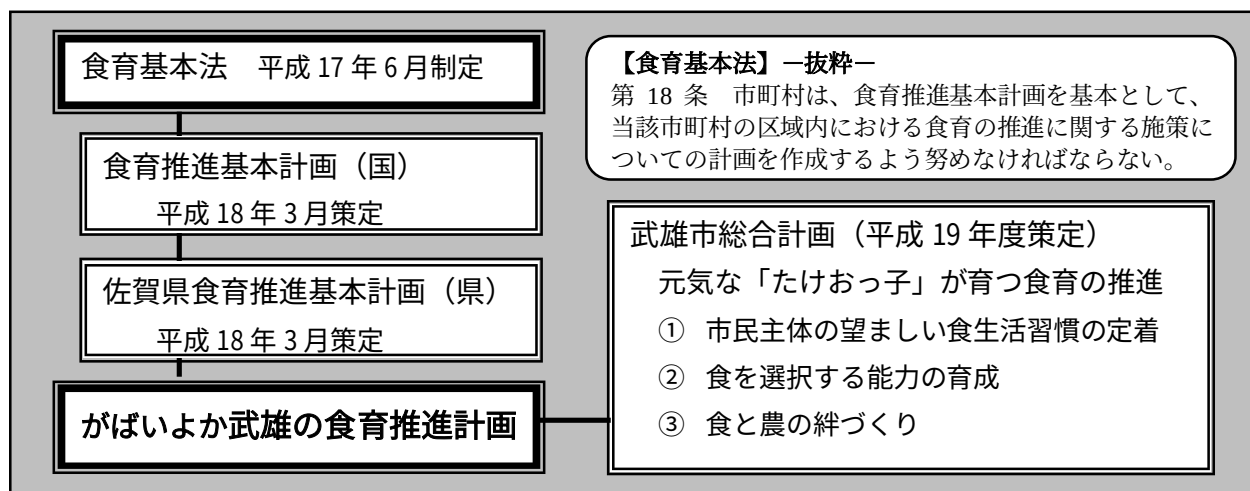
以上のことから、武雄の特性を活かし体験を重視した「がばいよか武雄の食育推進計画」を策定するものです。



【計画の位置づけ】

がばいよか武雄の食育推進計画は、食育基本法第 18 条に規定されている「食育の推進に関する計画の作成」に基づいた計画です。また、平成 18 年 3 月に策定された佐賀県食育推進基本計画においても、市町における食育推進計画の策定が示されています。

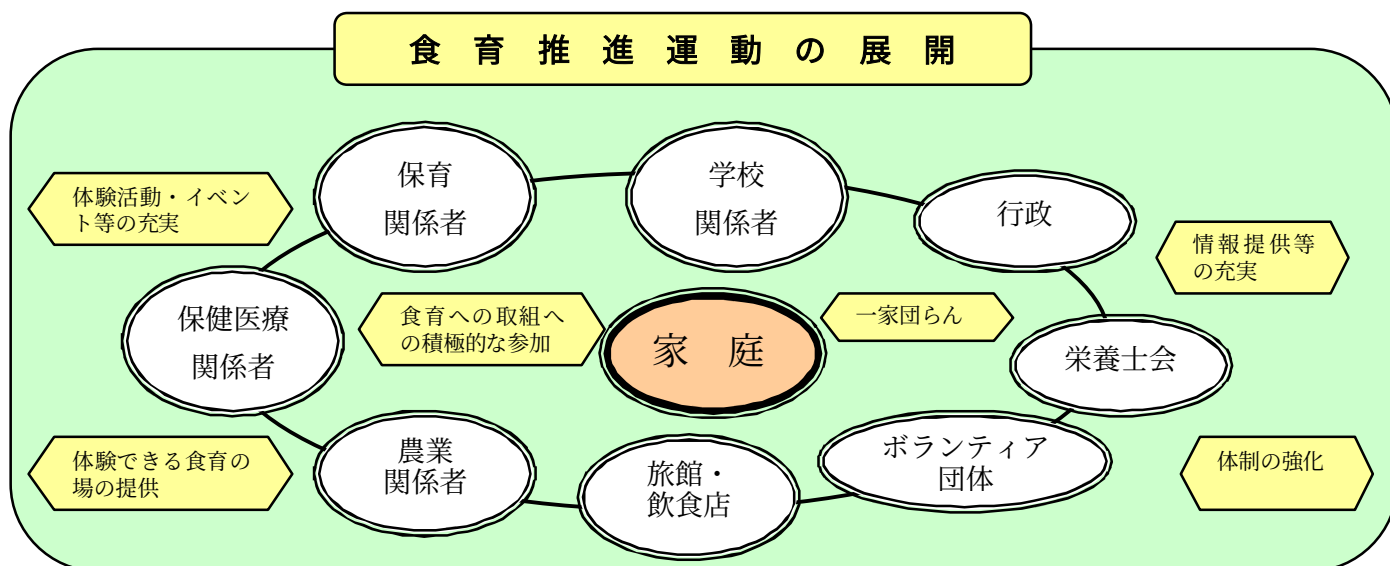
本計画は、武雄市における食育の方向性を示すだけでなく、これまでも取組まれてきた教育、健康づくりや農業等に関わる施策と連携することで、より効果的な取組へと発展させるものです。また、保育所・幼稚園や小中高校で策定する「食育推進計画」における食育の取組に活用するとともに、地域の力を活かし一人ひとりが健全な食生活の実践者になることを目指した食育推進運動の計画とします。



【計画の期間】

本計画の期間は、市民が取組やすい行動計画とし平成 20 年度から平成 22 年度の 3 年間です。

なお、社会情勢の変化に対応しながら弾力的に運用し、この期間に関わらず必要に応じて見直すこととします。



第1章 食育推進の目標

1. 計画の目標

食育の推進にあたっては、様々な人、風土、歴史及び環境のうえにはぐくまれている食について、一人ひとりが様々な体験により「楽しさ」を感じるとともに、食に対する親しみや感謝の念をもつことが大切です。

武雄市は、目標を以下のとおり掲げ「楽しく！健康！おいしい野菜 みんなで食育はじめよう！」を合い言葉に、年度ごとにテーマを設定し食生活に不足しがちで身近にある野菜を中心とした食育の取組を進め、子どもたちが心身ともに健やかに育ち、地域の人の輪の広がりによって次世代へ受け継がれていく食を育み、活力にみちたぬくもりある地域づくりを目指します。

目 標

食に感謝し、健やかに
食を楽しむ人づくり

食文化をはぐくむ
元気な地域づくり



合い言葉

①のしく！②けんこう！③おいしいやさい
楽しく！健康！おいしい野菜
みんなで食育はじめよう！



2. 基本方針

武雄市における食育は、家庭、地域、関係機関と行政との協働による市民運動として取組み、次の方針に基づき推進します。

- (1) 市民一人ひとりが「野菜を育てる楽しさ」「料理づくりの楽しさ」等を体験し、心豊かな人間性を育むよう食育で身につけたい力の習得に努めます。
- (2) 食に関する正しい知識と選択力を習得し、特に野菜をしっかりと食べる食習慣を身につけ、心身の健康増進に努めます。
- (3) 武雄で育った旬の野菜を題材として自然の恩恵や生産者等への感謝の気持ちを育み、地域に集いそこに残る食文化の継承を進めていきます。

食育で身につけたい力

1 健康的な食事を選択する

- 安全で体によい食材の選び方の知識をつける
- 規則正しい食生活のリズムを身につける
- 栄養バランスの取れた食事について知る

2 いのちに感謝する

- 食事の時にあいさつをする
- 適量を残さずに食べる
- 食と生命のつながりについて知る



3 食べ物の育ちを感じる

- 野菜の栽培や収穫を体験する
- 食べ物を大切に「もったいない」の気持ちを育てる
- 季節の食べ物に関心をもつ

4 料理ができる

- 食事づくりや手伝いをする
- 最低限の食事（ごはんのみそ汁等）を作ることができる
- 楽しい食卓づくりをする

5 食文化を継承する

- 郷土料理を食べる
- 味噌や漬物など加工品づくりを体験する
- 食事のマナーを身につける



第2章 食育推進の施策展開

基本方針を推進するためには、食育に携わる多くの関係者が各々の役割を果たし、食育を展開していくことが求められています。

武雄市では、地域の人の輪を広げ家庭を支援していく食育体験プログラム及びライフステージの取組を展開します。

1. 五感を使った食育体験プログラム

子どもたちが心身ともに健やかに育ち豊かな人間性を育むためには、様々な体験を積み重ねていくことが必要です。

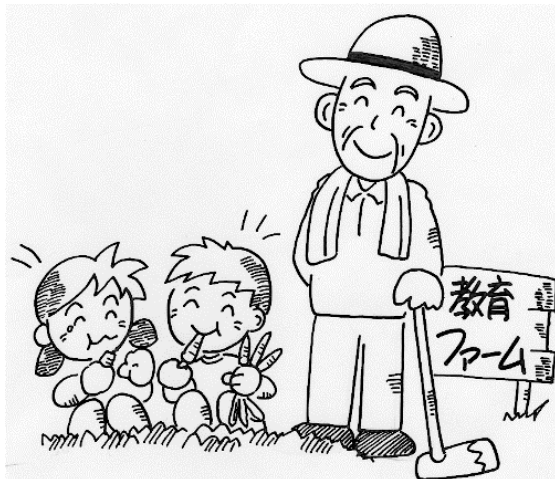
そのため、普段はなにげなく使っている5つの感覚「みる・きく・さわる・かぐ・あじわう」を使って武雄ならではの食を楽しむ体験型の食育推進プログラムを作成し取組めます。



※) ①から⑤は、食育で身につけたい力（P4）を表記しています。

(1) 「野菜パワーで元気100%」つくって食べようおいしい野菜 ③④

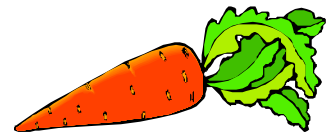
野菜を育てる楽しさや野菜を食卓に増やすため、武雄在住の専門家を講師に招いて、簡単に家庭でできる有機栽培による野菜作り教室や素材を活かした料理教室を開催する。



(2) 作って、食べよう！ニンジンおやつ～ニンジン嫌いゼロ大作戦～ ①③

ニンジンが嫌いな子どもを減らすため、ニンジンを使ったおやつ作り教室を開催する。また、子どものアイデアをもとに飲食店等でのメニュー開発を行う。





(3) だご（だんご）を訪ねて食文化を知ろう 25

東川登町大野原地区にある「だご念仏」等のまつりや農作業中の食事、家庭のおやつとして食べられた「だご」に着目し、「だご」とともに食された精進料理など食文化を再発見する。また、レモングラスやチンゲン菜などの野菜と「だご」の新たな食の開発を行う。



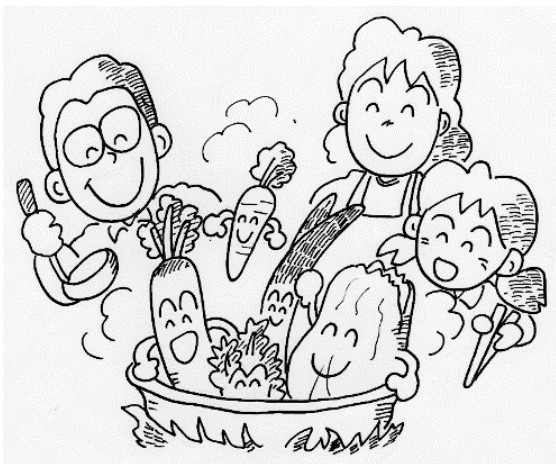
(4) 食から学ぶ、もったいないキャンプ 24

食べ物に感謝し、食事を作る力を身につけるため、限られた食材で、自らメニューを考え最低限の料理を作って食べる生活を体験する。



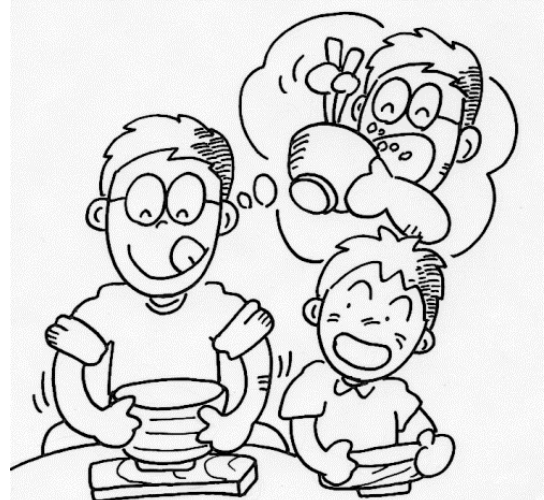
(5) みんなでつくる楽しいやしゃー鍋（野菜鍋）「わっはっは！」 24

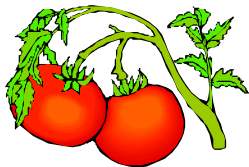
家庭を中心とした食育を進めるため、料理法を学ぶ機会の提供や家族が協力して料理を作り楽しく食べる教室を開催し、簡単料理集としてまとめ広める。



(6) ワンとしゃー（碗とおかず） 15

器を中心とした家族団らんの中で食事の楽しさを実感しながら野菜の和え物など食文化を継承するため、陶器づくり体験や器を使った食生活・栄養のバランスなどの食育教室を開催する。





2. ライフステージにおける食育の推進

食生活は長い年月をかけて形成されるものですが、それぞれのライフステージによって、食のあり方は異なります。その時期にあった食に関する知識や技術、健全な食生活の習慣化を目指し、一人ひとりの生活形態にあった食育を実践していくことが必要です。

そのため、ライフステージを妊娠期、乳幼児期、学童・思春期、青年・壮年期、高齢期の5つの段階で捉え、取組を展開します。

(1) 妊娠期

女性の妊娠期は、母子とも極めて重要な時期であることから、栄養バランスを考えた食生活を実践していく必要があります。妊娠を期に食生活を振り返ってみる必要があります。

また、食生活の大切さを知り、生まれてくる子どものために親が望ましい食習慣を築き上げる最も大切な時期です。親から子へ食文化などを継承していくためには、知識を習得することが求められています。

○施策の内容

◇母子手帳交付時や両親学級などにおいて、食に関する知識の普及や相談などに努めます。

○主な事業

- ◆母子手帳交付
- ◆母親学級
- ◆両親学級

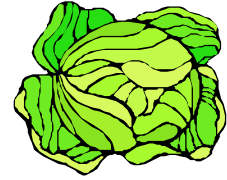
●みんなで食育チャレンジ項目●

◇妊娠期における食の重要性を認識するとともに、食に関する知識や情報を積極的に習得し、家庭において実践しましょう。

◇生まれてくる子どものために食に関心を持ち、食事を作るための基本的な知識を身につけ、バランスのとれた食生活を実践しましょう。



(両親学級)



(2) 乳幼児期

食の基礎を作る大切な時期であり、心身の発育・発達も著しい時期です。

家庭では、うす味を心がけ、いろいろな食材を利用して味覚を育て、好き嫌いをしない、食が楽しいものであることを育むことが大切です。

また、保育所・幼稚園において種まきから収穫体験などを実践し、食べ物に触れることにより、食べ物を大切にする心を育てる取組が求められています。

○施策の内容

- ◇乳幼児健康診査において、個別栄養相談など食事に関する情報を提供します。
- ◇離乳食教室など食に関する知識の普及や相談に努めます。
- ◇子ども料理教室を行い、食への関心を深める取組を進めます。
- ◇保育所・幼稚園では野菜作りなどを実践し、体験を通して自然への感謝の気持ちを培う取組を進めます。

○主な事業

- ◆4カ月児健診（離乳食教室）
- ◆1歳6カ月児健診
- ◆3歳6カ月児健診
- ◆乳幼児訪問
- ◆乳幼児相談
- ◆子育て応援クッキング教室
- ◆きっずキッチン教室

●みんなで食育チャレンジ項目●

- ◇乳幼児の発育・発達に役立つ食生活や食習慣に関心を持ち、様々な機会を通して情報を習得し、その実践に努めましょう。
- ◇家庭での食事は家族そろって食べ、会話をしながら楽しく食事をしましょう。



(子育て応援クッキング教室)



(きっず☆キッチン)



(3) 学童・思春期

心身の発育・発達とともに体力・運動能力が急速に高まり、個性が確立する大切な時期です。

食べ物と体の関係について理解し、自らが食事を選択することができる知識を身につけることが大切です。また、食生活の大切さを学び、望ましい食習慣を身につけさせるために、学校と家庭と地域が連携することが求められています。

○施策の内容

- ◇食育の生きた教材である学校給食には、地域で収穫された食材を利用するよう努めます。
- ◇PTAの行事や学校行事等を通じて、親子と一緒に食に関する知識を身につける機会を充実します。
- ◇親子料理教室、放課後児童クラブ等での食育教室などを実施し、基本的な調理方法を身につけ、食事づくりの楽しさを知り、食育に対する理解を深めます。

○主な事業

- ◆学校給食武雄の食の日支援
- ◆家庭教育支援事業
- ◆広めよう食育講座
- ◆ふれあい食育教室
- ◆農業体験学習事業
- ◆ふるさと食農教室先生派遣事業

●みんなで食育チャレンジ項目●

- ◇「早寝・早起き・朝ごはん」を実践しましょう。
- ◇食事づくりの手伝いを通して、食の大切さ、食品の選び方、調理の方法などの知識を習得しましょう。
- ◇親子で食育に関する知識を深めるとともに、食事づくりをしよう。
- ◇家族そろって食事を楽しみながら、マナーを習得しましょう。



(地元農家の方を招いた給食会)



(たんぼの学校)



(4) 青年・壮年期

身体の発達はほぼ完了し、精神的にも社会的な役割などを自覚し、生活習慣や食習慣が定着してきます。

日頃から自分の健康状態をチェックし、望ましい生活習慣や食習慣の改善を図りながら、健康維持に努める必要があります。

家庭においては、子どもたちに食事マナーや食材に関する知識を伝えていくことが求められています。

○施策の内容

- ◇健康教室を開催し、生活習慣病予防を食事と運動で実践できる場を提供します。
- ◇料理教室の開催や市民農園等での農業体験機会を提供し、食や農への理解を深め、家庭での実践につながるように情報提供に努めます。
- ◇食生活改善推進員による食育推進活動のための料理教室の開催について支援します。

○主な事業

- ◆健康づくり教室
- ◆健康づくり推進員育成事業
- ◆食生活改善推進員協議会事業
- ◆メタボリックシンドローム予防教室
- ◆健康相談
- ◆栄養相談
- ◆訪問指導
- ◆ふれあい食育教室（再掲）
- ◆ふるさと食農教室先生派遣事業（再掲）
- ◆直売所・加工所等支援
- ◆食と農のふれあい交流活動支援事業
- ◆市民農園管理運営事業
- ◆生ゴミ処理機等購入費補助事業

●みんなで食育チャレンジ項目●

- ◇食事に関する情報を積極的に取り入れ知識を習得し、家庭で実践しましょう。
- ◇適正体重維持のため規則正しい食生活をし、体力にあった運動を実践しましょう。
- ◇家族そろって食事を楽しみながらマナーを伝えましょう。
- ◇料理は必要な量をつくり、残飯を出さないように心がけましょう。
- ◇食育ボランティアなどの市民団体が実施する事業へ積極的に参加しましょう。



(ふれあい食育教室)



(食と農のふれあい交流活動支援)



(5) 高齢期

子どもの自立や会社を退職するなど生活環境が変化し、余暇の時間が増えることから生きがいや趣味をもって暮らしていくことが大切です。

人生経験の中から得た食に関する知識を活用し、地域において指導的な役割が期待されます。

○施策の内容

- ◇健康状態にあった食事内容についての相談、情報提供に努めます。
- ◇高齢者が子どもたちと料理をする機会を提供し、郷土料理の伝承に取り組めます。

○主な事業

- ◆健康相談（再掲）
- ◆栄養相談（再掲）
- ◆直売所・加工所等支援（再掲）
- ◆食と農のふれあい交流活動支援事業（再掲）
- ◆ふるさと食農教室先生派遣事業（再掲）



(G A B B A)

【写真 H19.12.27付け西日本新聞より】

●みんなで食育チャレンジ項目●

- ◇健康への関心を高め、健康状態にあった食生活ができるように、知識を習得し実践しましょう。
- ◇次の世代に郷土料理などを伝承しましょう。



(ふるさと食農教室)

第3章 計画の着実な推進に向けて

1. 計画の推進体制

食育に関する取組は、地域の特性を活かし、各主体が個別に実施することはもちろんのこと、様々な組織や人々の協働のもとで実施されることにより、より効果を期待できるものが多くあります。

そのため、この計画の着実な推進を図るために、「がばいよか武雄の食育推進委員会（仮称）」を組織し、行政をはじめ各主体が相互に連携し、食育を市民運動として展開します。

2. 家庭、地域及び行政の役割

子どもたちへの食育を実施するためには、対象である子どもや保護者はもとより、食育に携わる多くの関係者が各々の役割を果たしながら、食育を進めていくことが重要です。

（1）家庭の役割

子どもは、

- 保育所、幼稚園、学校や地域で実施される食育の取組について関心を持ち積極的に参加しよう。
- 食育で感じたことを家族に伝えよう。

保護者は、

- 保育所、幼稚園、学校や地域で実施される食育の取組に積極的に参加しよう。
- 子どもと地域の食材や料理について話をしよう。

（2）地域、関係機関・団体の役割

- 子どもや保護者が体験できる食育の場を提供します。
- 各関係機関や行政と連携して食育の取組を実施します。

（3）行政の役割

- 本計画の目標を達成するため、食育に関する施策を推進します。
- 食品の安全性、栄養その他の食生活に関することなど食育実践のための情報を提供します。
- 各関係機関と連携し食育の取組を実施します。



3. 計画の評価と見直し

計画を効果的に推進するために、計画（Plan）・実施（Do）・評価（See）についてマネジメントサイクルを確立し、実施する食育の事業により市民の食に関する意識や行動がどのように変わろうとしているかについて、食育の効果を評価し計画の見直しを行います。

食育推進の数値目標一覧

目 標	N o	指標	集計方法・対象等		現状値		目標値		
					直近値	根拠	H 2 2	設定理由	担当課
①市民主体の望ましい食生活習慣の定着	1	毎日朝食を食べている児童・生徒の割合	小学 5 年生		84.5%	杵島武雄地区食生活調査（平成 19 年度）	90%	「佐賀県総合計画 2007」の H22 年度の目標値	健康課 学校教育課
		中学 2 年生		81.6%	85%				
	2	主食・主菜・副菜の食事をしている児童・生徒の割合	小学 5 年生	朝食の内容「主食と主菜」「主食と副菜」「主食と主菜と副菜」を食べている割合	67.3%	杵島武雄地区食生活調査（平成 19 年度）	75%	バランスの良い食事をとる児童・生徒の割合の増加	健康課 学校教育課
	中学 2 年生		63.9%		70%		健康課 学校教育課		
	3	肥満の者（平均体重の 120%以上の者）の子どもの割合	中学 1 年生の肥満傾向児		12.0%	武雄市生活習慣病健診結果（H17 年度）	10.4%	全国平均並み	健康課 学校教育課
	4	肥満の者（BMI 2.5 以上の者）の市民の割合	壮年期 40～50 歳代	男性	26.4%	武雄市住民健診（平成 17 年度）	21%	「佐賀県健康プラン」の H22 年度の目標値	健康課
	女性			18.5%	13%				
5	食生活の面から市民の健康づくりを支援する店の数	健康づくり協力店登録店舗数		44 箇所	佐賀県杵藤保健福祉事務所調べ（平成 19 年 3 月末現在）	80 箇所	「武雄市がばいたっしゃプラン 2.1」の H23 の目標値	健康課	
②食を選択する能力の育成	1	主食・主菜・副菜の食事をしている児童・生徒の割合（①－2 再掲）	小学 5 年生	朝食の内容「主食と主菜」「主食と副菜」「主食と主菜と副菜」を食べている割合	67.3%	杵島武雄地区食生活調査（平成 19 年度）	75%	バランスの良い食事をとる児童・生徒の割合の増加	健康課 学校教育課
	中学 2 年生		63.9%		70%		健康課 学校教育課		
	2	学校田、学級園で農業体験を実施している学校の数	小学校（11 校）		11 校	市学校教育課調べ（平成 19 年度実績）	11 校	全小学校で実施	学校教育課
③食と農の絆づくり	1	学校給食の副食における県産食材の使用割合	学校給食栄養報告書	重量ベース	40%	学校給食栄養報告書（平成 18 年分）	50%	「佐賀県総合計画 2007」の H22 年度の目標値	学校教育課
	2	「武雄の食の日」を実施している学校の数	小中学校（16 校）	武雄産の農産物を使った「食の日」を設定し、「食の日通信（情報誌）」を発行している学校の数	4 校	市学校教育課調べ（平成 19 年度実施）朝日小学校、山内東小学校、山内西小学校、山内中学校	11 校	市内小中学校の 7 割で実施	農林商工課 学校教育課
	3	学校田、学級園で農業体験を実施している学校の数（②－2 再掲）	小学校（11 校）		11 校	市学校教育課調べ（平成 19 年度実績）	11 校	全小学校で実施	学校教育課
	4	生ごみの排出量	可燃ごみに食べ物のゴミ約 1/3 を乗じた値		3,338 t	市環境課（平成 17 年度）	3,237 t	「武雄市循環型社会計画」の H28 年度の目標値 10%削減の 1/3（3%減）	環境課

参 考 資 料



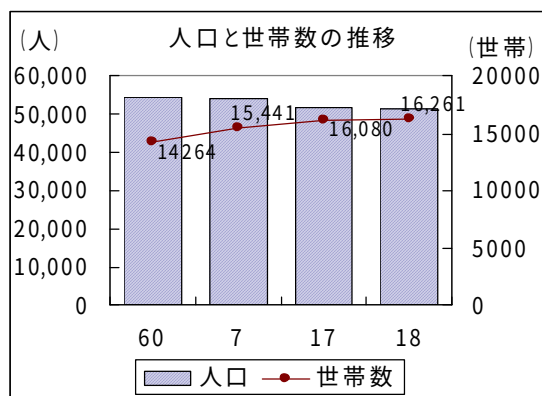
武雄市の人口の変化

	S60	H7	H17	H18	単位
人口	54,319	53,943	51,497	51,082	(人)
世帯数	14,264	15,441	16,080	16,261	(世帯)

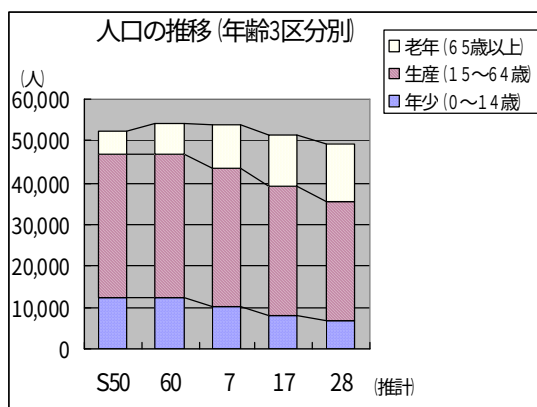
出典：佐賀県統計年鑑（10月1日現在）

武雄市の人口は、昭和60年54,319人であったが、平成18年は51,082人と減少傾向にあります。しかし、世帯構成については昭和60年14,264世帯であったが、平成18年には16,261世帯と増加しています。

人口構成では、平成28年には年少人口14.5%、生産人口57%、高齢人口28.5%と推計されています。

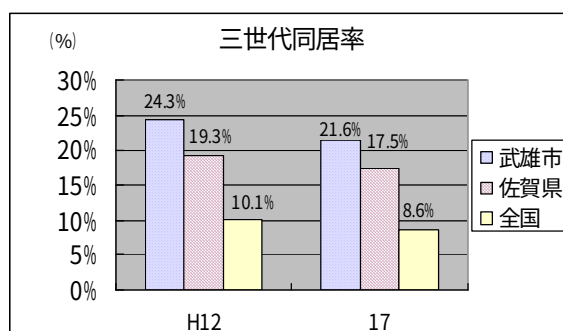
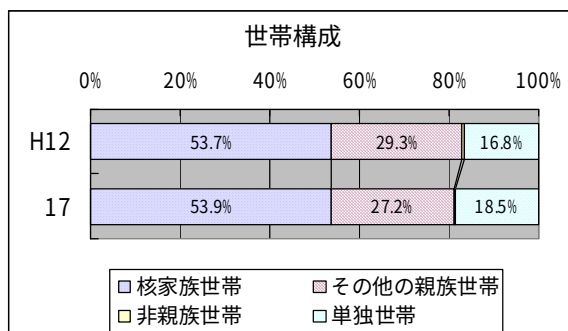


出典：佐賀県統計年鑑（10月1日現在）



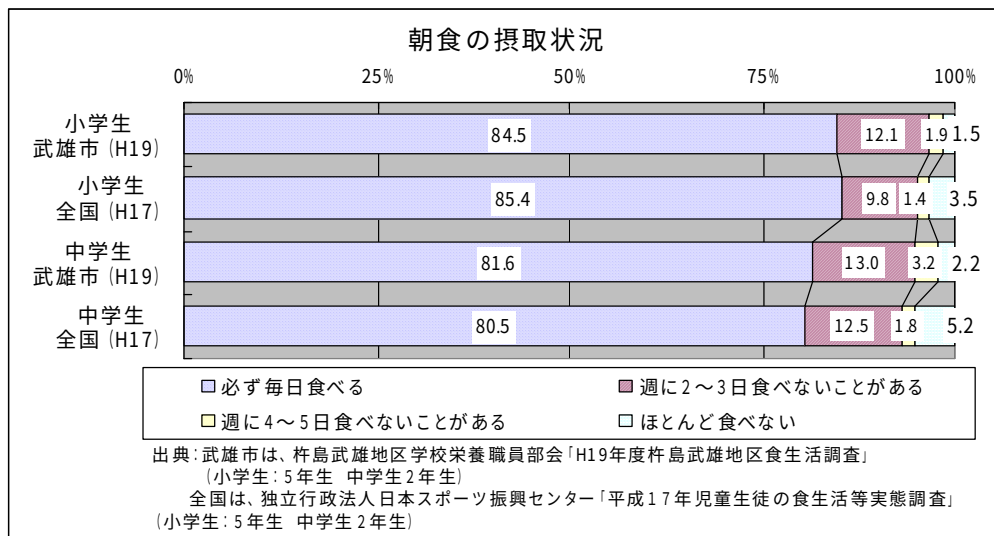
出典：国勢調査※H28は、推計人口（武雄市総合計画より）

武雄市の世帯構成の変化

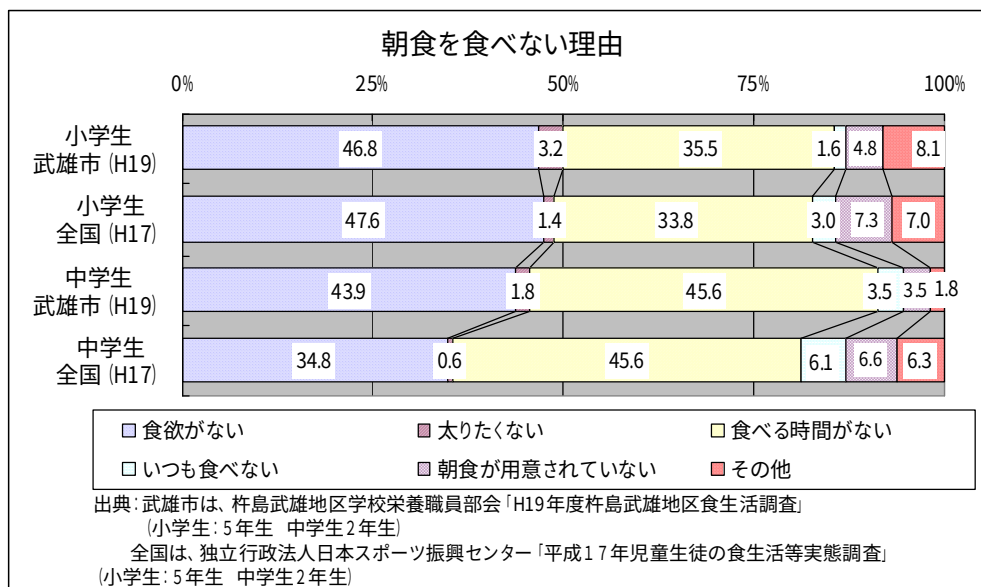


武雄市の世帯構成は、平成17年国勢調査では核家族世帯が53.9%です。三世代同居率は21.6%であり全国に比べ高い傾向にあります。

1. 朝食を欠食する子ども

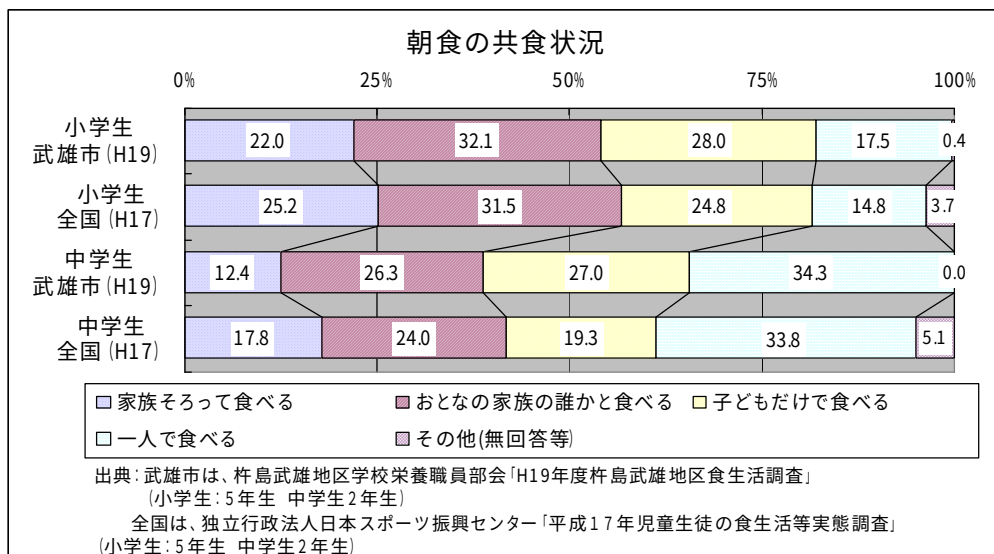


子どもの朝食の欠食率は、小学生が1.5%、中学生が2.2%と全国より低くなっています。1クラス40人とする、1クラス中、小学生が0.6人、中学生が0.9人となっています。しかし、朝食を「必ず毎日食べる」割合については、小学生が84.5%と全国より低くなっています。



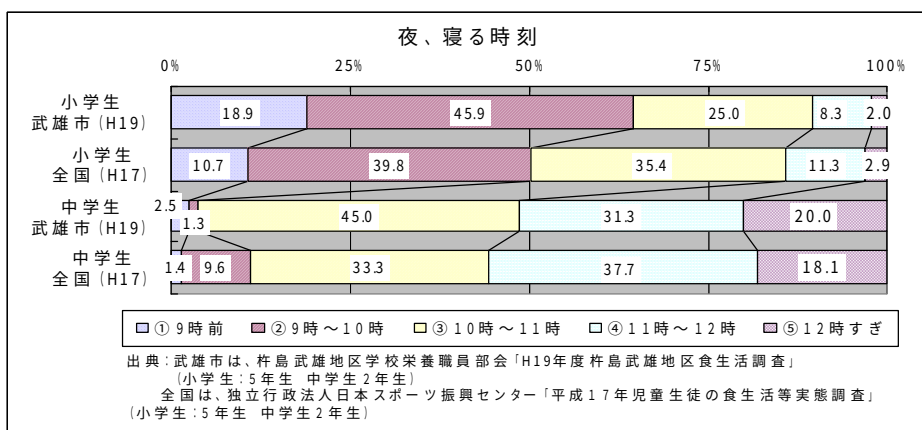
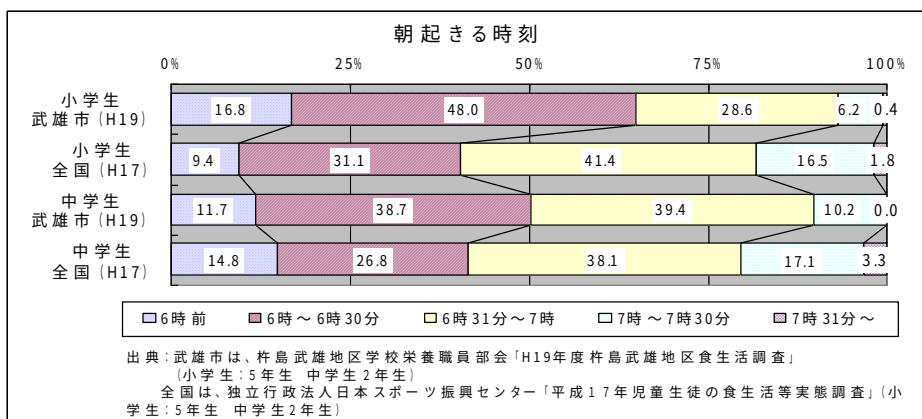
朝食を食べない理由は、小学生では「食欲がない」が46.8%と最も高く、中学生では「食べる時間がない」が45.6%と最も高くなっています。

2. 朝食を一人で食べる子ども

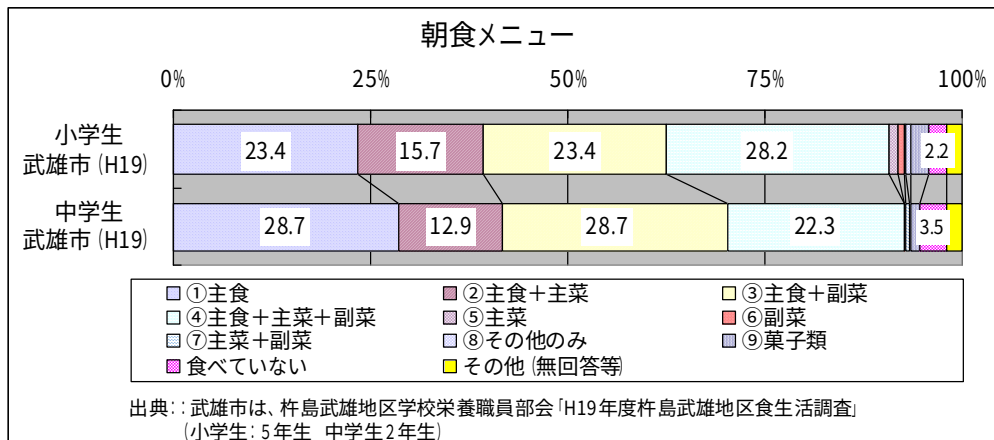


朝食を一人で食べる子どもは、小学生が17.5%、中学生が34.3%となっており、小学生については全国より少し高くなっています。1クラス40人とする、1クラス中、小学生が7人、中学生が13.7人となっています。

3. 子どもの起床時間と睡眠時間



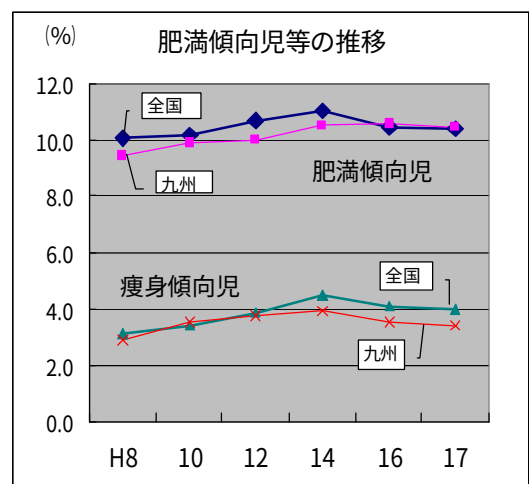
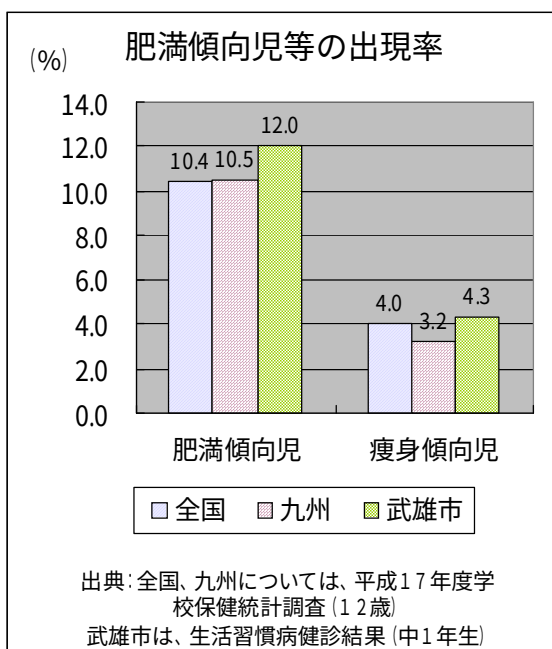
4. 子どもの朝食メニュー



子どもの朝食メニューは、小学生では最も望ましい食事である④の主食（ごはん、パン等）・主菜（肉、魚等）・副菜（みそ汁、野菜等）を食べている割合が28.2%と最も高く、中学生では22.3%となっています。また、②の主食と主菜と③の主食と副菜の朝食を含めると、小中学生ともに6割を超えています。しかし、①主食、⑤主菜、⑥副菜のみや⑨菓子類を食べている割合は3割となっています。

5. 子どもの肥満

子どもの肥満は、中学1年生で12%と全国より高くなっています。1クラス40人とする、1クラス中4.8人になります。



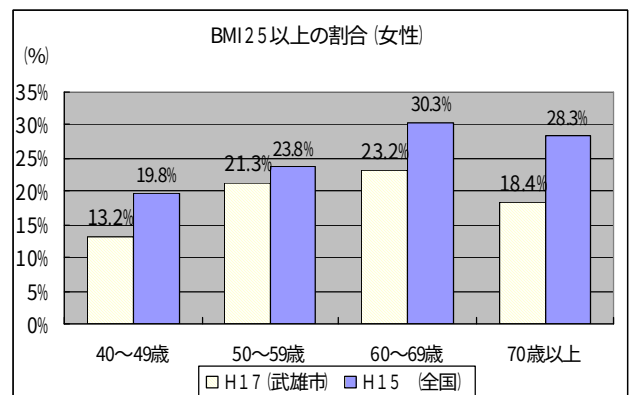
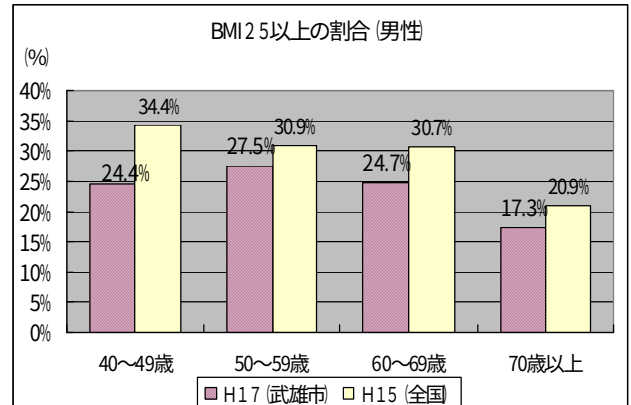
出典：学校保健統計調査

注）肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
注）痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下の者である。

肥満度＝（実測体重－身長別標準体重）／身長別標準体重 × 100（%）

6. 年代別肥満の状況

住民健診における肥満の者（BMI 25以上の者）は、男性では50歳代で27.5%と最も高くなっており、4人に1人が肥満となっています。また、女性では、60歳代の23.2%をピークに増加傾向となっています。しかし、全国と比較するとすべての年代でやや低くなっています。



出典：市健康増進課

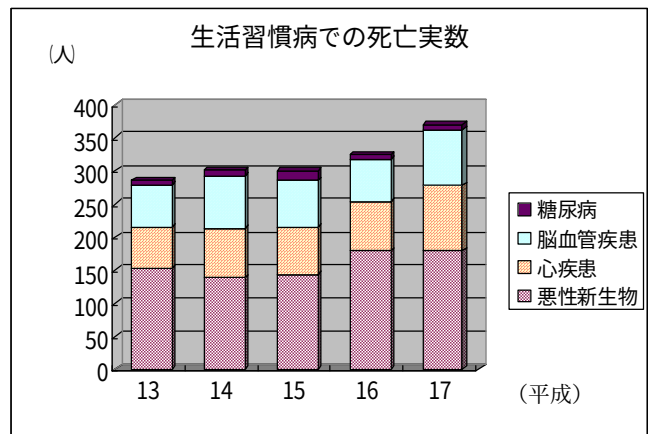
7. 生活習慣病

生活習慣病による死亡実数

	H12	H13	H14	H15	H16	H17
悪性新生物	186	153	139	144	180	179
心疾患	68	63	74	72	74	99
脳血管疾患	79	63	80	70	63	84
糖尿病	5	7	8	13	7	6
4大疾病	338	286	301	299	324	368

出典：保健統計年報（人口動態調査） 単位：人

原因別死亡割合をみると、生活習慣病（悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病）での死亡者が368人となり、死亡者全体の60.5%となっています。また、生活習慣病を起因とする死亡者は増加傾向にあります。



8. 食育の推進に関わるボランティア数

団体名	会員数
食生活改善推進協議会	564人
山内町ふるさと食品研究会	26人
計	590人

(平成19年4月現在)

9. 学校田、学級園で農業体験を実施している学校

内 容 米・野菜づくりの体験学習(平成19年度)

事業内容 学校田、学級園を利用した体験学習を通じて、旬を感じ、食事の大切さや流通を知る学習を実施した

実施時期 通年

事業規模 市内小学校 11校(野菜づくり3校、米及び野菜づくり8校)

10. 学校給食における県産食材の使用

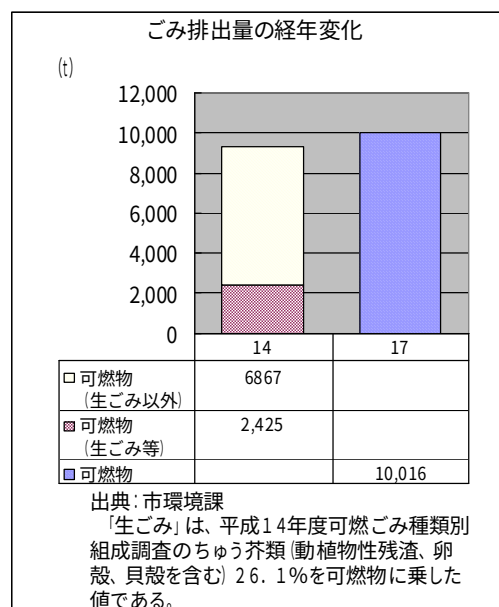
学校給食における県産農林水産物等の利用状況をみると、全食材の68%が佐賀県産の食材が使われています。佐賀県産食材の利用率は、主食については約7割と高いが副食については4割と低くなっています。

	(平成18年分 重量ベース)			
	全 食 材	主 食	牛 乳	副 食
武雄市	68%	68%	100%	40%
佐賀県	71%	76%	100%	43%

出典：学校給食栄養報告書(佐賀県流通課調べ)

11. ごみの経年変化

人口は減少傾向にありますが、市民が排出する可燃ごみの量は年々増加しています。平成14年度可燃ごみ種類別組成調査によると、生ごみは26.1%であり年間2,425tとなり、年間一人当たり46.3kgの食べ物を廃棄していることになります。



『がばいよか武雄の食育推進計画』は、武雄市食育推進調査会議の審議及びワークショップを踏まえて、武雄市食育推進策定会議で策定しました。

◆武雄市食育推進調査会議 (17名)

所属団体	氏 名	所属団体	氏 名
(会 長) 西九州大学	澤野香代子	武雄市 飲食業組合	古川久美子
(副会長) 山内商工会	白濱幸広	武雄市食生活改善推進協議会	中尾良子
九州農政局佐賀農政事務所	坂田徹行	武雄市連合 PTA	溝上千佳子
杵島農業改良普及センター	西村裕美子	武雄市子どもクラブ連絡協議会	小林孝人
杵藤保健福祉事務所	相原康子	公募市民	山下裕輔
武雄市小中学校校長会	緒方俊昭	公募市民	下平寅義
武雄市保育部会	井上一夫	公募市民	中尾やすよ
佐賀県農業協同組合武雄支所	大宅幸子	公募市民	小原嘉久
味菜ネットワーク	宮原祐子		

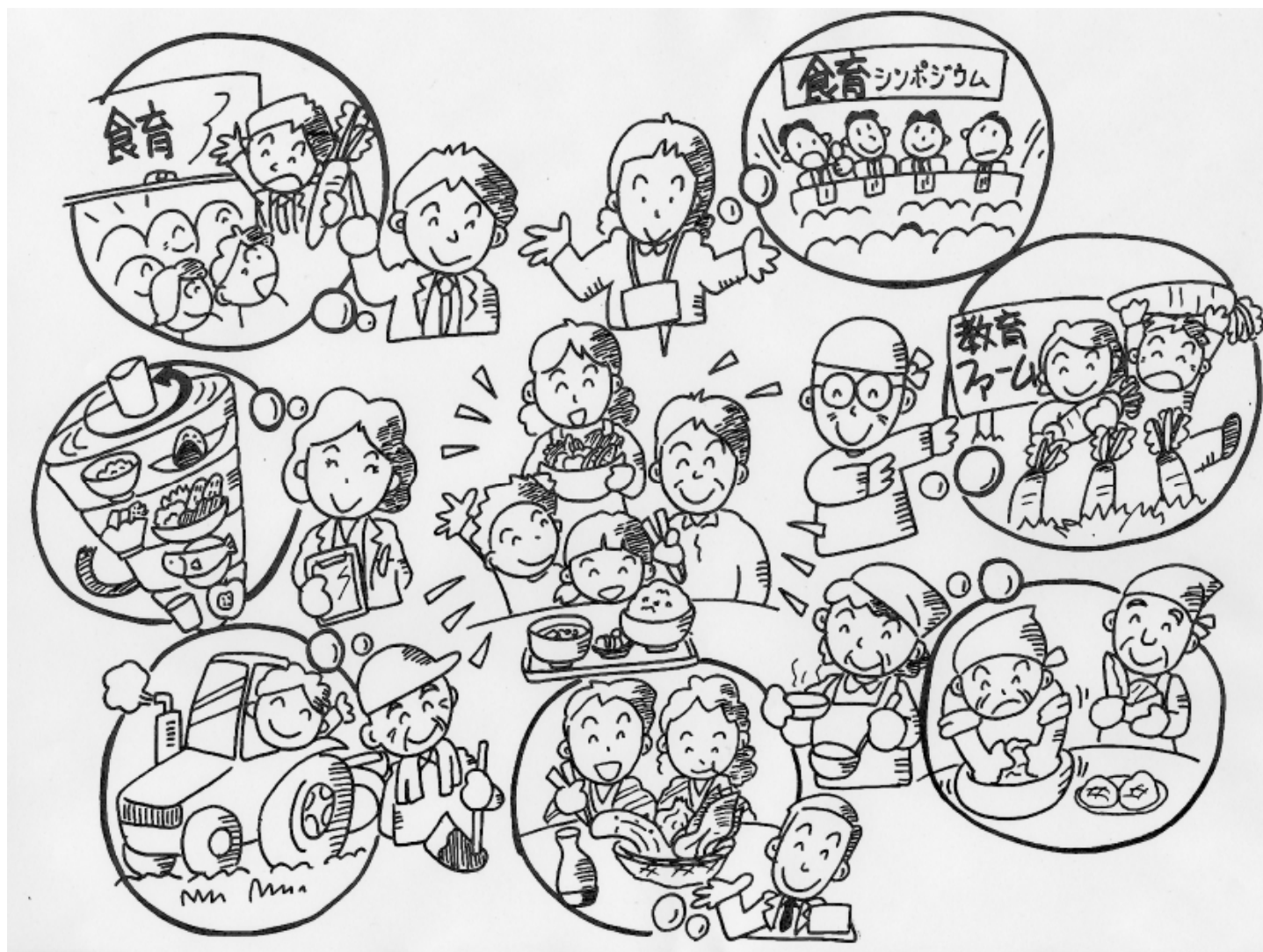
(順不同)

◆武雄市食育推進計画 ワークショップ (34名)

所属団体	氏 名	所属団体	氏 名
武雄市食育推進調査会議委員	澤野香代子	学校食育担当	木下泰造
武雄市食育推進調査会議委員	西村裕美子	学校栄養職員	古川恵美子
武雄市食育推進調査会議委員	大宅幸子	学校栄養職員	吉本亜記
武雄市食育推進調査会議委員	宮原祐子	武雄農林事務所	平野あかね
武雄市食育推進調査会議委員	白濱幸広	武雄市食生活改善推進協議会	織田美代子
武雄市食育推進調査会議委員	古川久美子	武雄市内幼稚園	宮嶋英子
武雄市食育推進調査会議委員	溝上千佳子	NPO 法人 自然会	池田直
武雄市食育推進調査会議委員	山下裕輔	武雄市母子保健推進協議会	小松利恵
武雄市食育推進調査会議委員	下平寅義	市内飲食店	池田太祐
武雄市食育推進調査会議委員	中尾やすよ	食育関係課職員	
武雄市食育推進調査会議委員	小原嘉久	※食育関係課・・・企画課、観光課、農林商工課、未来課、健康課、環境課、教育総務課、学校教育課	

(順不同)

事務局 武雄市こども部食育課



発	行	佐賀県武雄市
		こども部食育課
表紙写真撮影		武雄市長 樋渡啓祐
イラスト協力		下平寅義